

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 宮城県松山高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	対象学年＝1年生 クラス＝普通科22名・家政科39名 参加者＝普通科17名・家政科34名
3 展開の形式	（1）学校における活動 次の5つのうちから選択し○をつけてください【複数選択可】 ① 教科名（ 体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	パラリンピックの気運醸成を促すとともに オリンピック・パラリンピックの価値や意義を現在の教育活動に活用する。 復興を支える生徒の育成に役立つ教育手法の事例研究に取組むことを目的とする。
5 取組内容	事前学習；図書館と図書館前掲示板にてブラインドサッカー競技や視覚障害者への理解が深まるようなレイアウトへ変更。 事後学習；参加アンケートの実施。ソーシャルスキルトレーニングでのアイマスク導入。  

<p>6 主な成果</p>	<p>《参加した生徒の感想》</p> <p>○とても楽しかった。目の不自由な方に会ったら、手伝ってあげたいので、もっと多くを学びたい。</p> <p>○最初は怖くてボールに触れることなどできるのか?と思ったが、自分の目のかわりになってくれる人がいると安心して動くことができた。盲目の人たちに対して少し抵抗があったが、自分が見えない側を体験することで、盲目の人の大変さが少しわかった。そういう方に出会ったら、積極的に手伝いたいと思う気持ちが大きくなった。</p> <p>○目の大切さがすごくわかった。目が見えなくてもスポーツができる幸せを感じた。</p> <p>○音だけを頼りに試合をすることがすごいと思った。人の声を聞く大切さを知った。</p> <p>○目が見えないのはとても不便だと感じた。耳をつかって音を聞くことの大切さに気づいた。</p> <p>○障害者向けのスポーツを私たちが行うことで、思いやりや気遣いを分かち合える。</p> <p>○目が見えないととてもこわく、誰かの助けが必要なんだと感じた。</p> <p>○体の一部が不自由なだけでこんなにも大変なことを知った。身近に目が不自由な人がいたら、助けたいと思う。目が不自由でもそうでなくてもみんなが楽しめるスポーツはすごいと思った。</p> <p>障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会にするということを生徒に伝えるために実施した行事であったが、望んでいた以上に生徒は共生社会への理解を深めたように感じた。誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える社会実現へのきっかけづくりができたように思う。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD鑑賞等を含めた事前学習。 ・道具を共有しないような工夫。 ・換気の徹底。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入に時間がかかってしまうため、実際の競技体験がなかなかできない。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>参加者 54 名のうち、次年度も是非参加したいという生徒が 24 名で 47% の生徒が次年度も参加したいと答えた。他の 53% の生徒は、体験自体は楽しかったが、新型コロナウイルス感染症の影響が不安だという回答が多かった。</p> <p>相手を思いやることができたことが大きな収穫で、機会があれば次年度も感染防止策を講じながら実施を検討したい。</p>